『世界の日本語教育』3, 1993年3月

絶対敬語と相対敬語
日韓敬語法の比較

白　同　善*

キーワード：絶対敬語，相対敬語，上下関係，親疎関係，皇室敬語

要　旨

一般に，日本語は相対敬語を有し，韓国語は絶対敬語を有するといわれる．このような説明は，一般論としては正しかろう．しかし，日常の言葉の中には一般論では片付けられない用法，いわば「規範からの逸脱」が珍しくない．それは，伝統的な用法としても新しい用法としても現われる．

韓国語の相対敬語現象がみられるのは，主に身内敬語においてである．身内敬語におけるそのような現象は伝統的な用法である．一方，韓国語が絶対敬語法を有するという説明の根拠になっている用法の中にも揺れの現象がみられる．すなわち，ウチ(身内)のものが話題の人物で聞き手がヨソ(外部)の人である場合，従来ならば絶対敬語が現われるはずのところに時として相対敬語が現われるのである．これは，新しい傾向の「逸脱」である．

日本語における絶対敬語現象の代表格は皇室敬語である．それは絶対敬語本来の姿をそのまま受け継いでいる．しかし，日常の言語の中でも，今までは規範であった相対敬語用法がかなりの揺れをみせている．

日本語にも韓国語にも伝統的な敬語用法に縛られることなく，状況に応じてそれらを使い分けようとする傾向が窺える．つまり，敬語を上下関係に基づく用法として捉えるよりは，それを親疎関係あるいは環境に基づく用法として捉えようとする傾向が観察されるのである．ただ，日韓両言語を比べてみると，韓国語では上下関係を反映した用法がまだ根強く残っており，日本語では親疎関係を反映した用法が優先的であるように思われる．

はじめに

敬語法の発達は日本語と韓国語の共通の特徴の一つである．敬語法を「発話に関与する人物と話者との関係に応じて行われる言語表現の選択」というように極めて広く定義するならば，おそらく敬語法を持たない自然言語はないであろう．どんな言語においても，同じ事柄を表わす表現形式がいくつかあって，それらが場面や相手と全く無関係に自由に選択できるわけではないからである．しかし，一般に敬語法というとき，このような広義の解釈をそれに与えているのではな

* PAEK Dong Sun：名古屋大学大学院文学研究科(日本言語文化専攻)博士課程．

く，話者と関与する人物との関係に応じて選択される「体系的仕組み」の意味でそれを用いている．つまり敬語法とは，そのような関係によって規定される文法範疇，要するに敬語体系・敬語範疇を指しているのである．

一般に，日本語は相対敬語で，韓国語は絶対敬語だといわれる．一般論としては確かにそういえる．しかし実際の言語生活の中には，一般論では説明できない事象が存在する．それは，伝統的な用法の中にもまた新しい用法の中にも観察される．本稿の目的は，日韓敬語法のもっとも重要な相違点だと考えられる絶対敬語法と相対敬語法に関して考察し，それによって，日韓両言語の敬語に対する伝統的な考え方の問題点を指摘し，現在における敬語運用の一面を明らかにするところにある．

1. では，日韓両言語の敬語法の最大の相違点だと考えられる絶対・相対敬語法に関して論じる．2. では，絶対敬語を有するといわれる韓国語の相対敬語現象について，3. では相対敬語を有するといわれる日本語の絶対敬語現象について考察を加える．

なお本稿では，ハングル表記された韓国語の単語に対し，必要に応じてローマ字転記を添えるが，それは韓国語の音声の特徴を忠実に写したものであって音素表記したものではない．

1. 絶対敬語法と相対敬語法

上で述べたように，日韓の敬語法の最大の相違点は，韓国語の敬語が絶対敬語法であるのに対して，日本語の敬語は相対敬語法であると考えられている．ここでは，この絶対敬語法，相対敬語法というのがどのようなものであるかを具体的に説明したい．

一般に敬語の選択は人間関係に基づいて行われるが，この場合の人間関係は，上下関係といういわば縦の関係と親疎関係という横の関係とに大別できる．日韓いずれの言語においてもこの両方が敬語法に関与しているのは間違いのない事実であるが，日本語は韓国語に比べて親疎関係を重要視する傾向がある．例えば，日本では子供が両親に対して(あるいは関して)敬語を用いることは普通しない．戦前の日本では身内でも目上の人に対しては敬語を用いるという習慣があったことは当時の映画の会話などから窺い知ることができるし，今日の日本でもそのような敬語行動を家風としている家庭もないわけではないそうだが，今日一般の家庭では身内で敬語を使うことはまずないといっていいであろう．これは，上下関係よりも身内か身内でないか，あるいは親しいか親しくないかといった親疎関係の方が重要視された結果である．

これに対して韓国では，相手が身内であっても目上の人であれば必ず敬語を使わなければならない．むしろ，上位者に対する敬語は身内であるほど厳しく，例えば父親のことを独り言でいう場合にも敬語を用いるほどである．これは，韓国では儒教の伝統が強く残っていて，その精神が家族・親族内部の言語行動をはじめ様々な行動様式を強く律しているからである．

縦の関係である上下関係には，社会的地位の上下，年齢の上下，あるいは能力や経験の上下など多様な上下関係がある．その中で社会的地位の上下関係と年齢の上下関係とを敬語の選択に対する影響力の観点から比べてみると，韓国では年齢の上下関係の方が優先される傾向にある．あるいは地位の上下関係と少なくとも同等の影響力を持っている．これに対して日本では，地位の上下関係の方が優先されやすいといえよう．例えば，年下の上司に対する場合，日本では敬語がごく自然に使用されるようであるが，韓国では敬語を使うのに多少なりとも抵抗が感じられることが多い．逆に年上の部下に対する場合，日本では敬語を略してもさほど不自然さはないようであるが，韓国ではそうすることに大いにためらいが感じられる．また，年少者が買い物をする場合，韓国ではいくら客であるといっても敬語を略して店のおじさん，おばさんに話しかければ，物を売ってもらえないどころか日本では想像もできないような結果を招くことにもなりかねないほど年齢の上下関係が敬語運用に与える影響力は甚だしいのである．

韓国語と日本語とでは，敬語の運用法が異なるのであって，敬語そのものの質が異なるわけではない．実際，韓国語にも日本語にも素材敬語と対者敬語の区別が存在する．素材敬語とは，いうまでもなく，話の素材となる人物・事物・事柄に関する敬語，すなわち従来いわれてきている尊敬語と謙譲語のことであり，対者敬語とは聞き手に対する敬語，すなわち従来の丁寧語のことである．

ここで注意すべきは，これら二種類の敬語のうち素材敬語だけが絶対敬語か相対敬語かの議論に関わり，対者敬語はそのことに一切無関係であるということ，したがって以下の議論において敬語というとき，それは素材敬語を指しているということである．

さて，絶対敬語法とは，素材敬語の選択が素材の人物と話し手との関係だけに基づいて行われ，それ以外の観点が一切入らない敬語法のことをいう．例えば，韓国語で自分の父親を素材として話すときは，いかなる場合にも敬語を用いなければならない．少なくとも規範としてはそういうことになっていた．誰に向かって話すかとか，どんな場面で話すかといったことは一切関係しない．素材の人物(父)と話し手(子供)の関係だけで，絶対的に敬語の選択が決定されるのである．次の例は敬意を表わすべき他人(例えば学校の先生)に向かって父親のことを話す場合の表現である．

(1) 저희 아버님이 안부 전해드리라고 말씀하셨습니다.
(私のお父様がよろしくどおっしゃっていらっしゃいました.)

網掛の部分が話題の人物に対する敬語表現であるが，아버님 (お父様)の使用は必ずしも義務的ではなく普通形の呼称 아버지 /abɔji/ でも構わない．しかしながら，用言の敬語形 말씀하셨습니다 (おっしゃいました) は義務的であり，普通語形の 말했습니다 (言いました) を使うことは許され

難い.

同様に，社員が社長を素材として話すときも常に敬語を用いなければならない．たとえ会社外部の人に向かって話すときでも，次のように敬語形を用いなければならない.

(2) 사장님은 지금 안 계십니다.
(社長様は今いらっしゃいません.)

この場合は，主語の 사장님 (社長様) も述語の 안 계십니다 (いらっしゃいません) も共に義務的な尊敬語形であり，それぞれの普通語形 사장 (社長)，없습니다 (いません) を使ってはならない．このように，話し手と素材の人物の関係だけで敬語使用の有無が決められる方法を絶対敬語法という．このような用法が韓国語の敬語が絶対敬語であるといわれる最大の根拠になっている.

一方，相対敬語法とは，素材敬語の選択に当たって，素材の人物と話し手との関係ばかりでなく，聞き手と素材の人物との関係，話し手と聞き手との関係，あるいは話し手・聞き手・素材の人物の三者関係が関与するような敬語法のことである．例えば，日本語では上記の(1)の場合，韓国語の直訳として示したような表現を使うことはできない．「お父様」どころか「お父さん」も使えず「父」といわなければならない．述語動詞についても敬語形の「おっしゃる」は使えず，普通語形の「言う」か謙譲語形の「申す」を用いなければならない．つまり，次のどちらかのように表現しなければならない.

(3) a) (私の)父がよろしくと言っていました.
b) (私の)父がよろしくと申しておりました.

例文 (2) についても同様のことがいえる．社員が社長について会社内部の人間に対して話す場合には，例文 (2) の直訳として示した表現のように敬語を用いて話す．ただし，日本語では職位を表わす表現が敬意を持ち得るので，単に「社長」とだけいえばよい．しかし，会社外部の人に同じことを話す場合には，次のように謙譲語形を用いなければならない.

(4) 社長は今おりません.

このように人間関係の相対的な関係を考慮して敬語使用の選択が決められるのが相対敬語法である．つまり，韓国語では素材敬語を用いる場合に話し手自身と話題の人物との関係だけを考慮しているのに対して，日本語では誰に向かって話しているかということも意識していなければならない．これを図で示すと次のようになる.

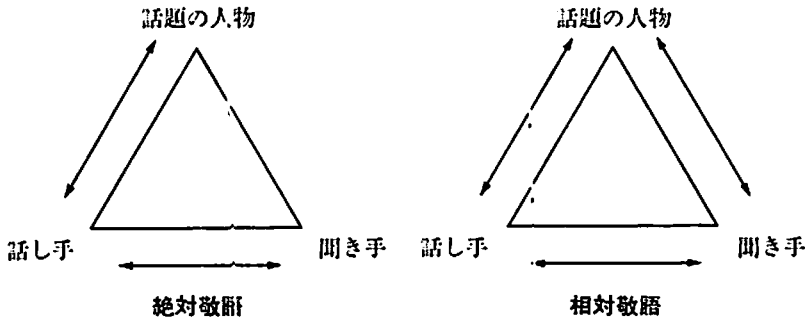

図 1 絶対敬語と相対敬語

このような絶対敬語法と相対敬語法の違いは確かに日韓敬語法の大きな相違点であり，韓国人が日本語を習得する場合にも，日本人が韓国語を習得する場合にも，完全に慣れるまでには時間のかかる問題である．しかしながら，日本語との比較において韓国語を解説する場合によくなされるように，韓国語は絶対敬語法であり日本語は相対敬語法であると単純に割り切ってしまうことには問題がある．韓国語にも相対敬語法の用法があり，逆に日本語にも絶対敬語法の用法があるからである．

2. 韓国語の相対敬語用法

韓国語の相対敬語現象については，すでに先行研究においていくつかの事例が指摘されている．成者徹(1984：408)は，孫が祖父母に向かって父母のことを話題にするとき相対敬語的な配慮が働く例を挙げている．

(5) a) 할아버지, 이거 아버지한테 갖다 줄까요?
(おじいさん，これをお父さんにやりましょうか.)
b) 할아버지, 이거 아버지께 갖다 드릴까요?
(おじいさん，これをお父さんに差し上げましょうか.)

(5a) は非敬語の与格助詞 -한테 /hanthe/ (～に) と同じく非敬語の動詞 주다 /chuda/ (やる) を用いた非敬語の表現である．これに対し (5b) は，父親に対する尊敬を表わす与格助詞 -께 /k'e/ と謙譲動詞 드리다 /turida/ (差し上げる) を用いた表現である．

成が指摘している通り，これら二つの表現のうち正しいのは (5a) の方である．(5b) は稀に使用例がみかけられるが，正しい言葉使いではない．祖父に向かってではなく，例えば母親に向か

っていうのならば，もちろん (5a) ではなく (5b) のように尊敬表現を使わなければならない．ところが，素材である父親よりも上位の祖父に向かって話す場合には，父親に対する敬語表現の使用が差し控えられるのである．成者徹自身は相対敬語法という用語は用いてはいないけれども，これは明らかに韓国語における相対敬語法であるといえよう．韓美卿(1989：197-98)はこの問題に関して次のように述べている．

家庭や職場という枠の外では聞き手とは一応無関係に話し手と話題の人物との関係によって敬語の使用が決まるという特徴がある．しかし，家庭及び職場という枠の内では敬語の使用が話し手と聞き手と話題の人物との三者を共に考慮した上で決まるという相対敬語的な面も存在する．

家庭内では上に述べたような場合のほかに，親や祖父母の前では兄弟や配偶者に対する敬語表現は差し控えられるし，職場でも社員が社長に向かって部長や課長の話をするとき，部長や課長に対する敬語表現は控えられるか，あるいは少なくとも敬語を使用するのがためらわれる．しかし，職場でのこのような言い方はまだ確立しておらず，またその逆の現象，すなわち敬語抜きで部長のことを社長にいう場合にも一般的にためらいを感じているのである．

韓美卿(1989：198)は，家庭や職場という枠の外では絶対敬語法が用いられるというけれども，実際にはそのような場合にも相対敬語的な表現が用いられていることは，韓自身の次のような観察からも明らかである．

最近の現象として先生の前で大学生が年齢の差の少ない先輩のことを敬語を使って話したり，若い女性が先生に対して自分の夫のことを敬語を使って話すということもしばしばある．

絶対敬語表現であるこの現象の問題点を指摘していることは，つまり，このような場合，聞き手に対する配慮から相対敬語法的に敬語を使わないのが妥当であることを物語っている．なお，上の観察に基づいて韓は「おそらく韓国語の相対敬語的な面はしだいに薄れて絶対敬語の色彩が強まっていくだろう」と述べているが，筆者の予測はそうではない．韓が観察対象としているのは絶対敬語の色彩が強く現われる特殊な場面で，それを強調しすぎているように思われる．

以上は話し手より上位者を素材とする場合の相対敬語現象であるが，これとは逆に下位者を素材とする場合の相対敬語現象もある．これに関連して梅田(1977：254-55)は次のように述べている．

朝鮮語では，素材に対して敬意表現を行うかどうかは話者と素材の関係だけできまり，対者

との関係は介入しない．素材が話者よりも上位であればたとえ身内であっても，身内でない対者に敬語形を使って言及するし，また素材が子供であればたとえ対者の身内であっても敬語形は使わない．もっとも，あまり親密でない間柄で素材が対者の成人した息子または娘である場合には話者よりも下位であるにもかかわらず敬語形を用いるが，これは疎遠な素材に対する敬意表現に準ずるものと考えられる．（下線筆者）

この引用における下線部は，韓国語にも相対敬語的な表現が可能であることを示唆している．また，南(1987：54)は，おそらく梅田の記述を受けて，次のように述べている．

韓国・朝鮮語の敬語の用法は，たとえば年上の人物にはいつでも敬語を使う，年下の人物には敬語を使わないというふうに一定している．成人から見て年下の子どもに対しては，それがたとえ送り手にとって目上の人の息子や娘であっても，敬語は使わないのである．

このような記述には大いに疑問があり，韓国語の実体を正確に捉えているとはいい難い．「敬語」という用語で対者敬語(丁寧語)のことをいっているのであれば，上の記述は間違いではない．韓国語では，日本語で時々見られるように子供に対して敬語を用いて話しかけることはないからである．しかし，上の記述がなされている前後関係からしても，また，「素材に対して」「素材が子供であれば」といった表現からしても素材敬語についての記述であると容易に想像される．

ここで，韓国語の実態を知るために日本語を引合に出してみよう．日本語では，子供に対しては敬語を用いないのが通例であるけれども，それが敬意を表わすべき対者(例えば先生)の子供である場合は，自分より年下であっても次の例の a) のように敬語を用い，b) のような非敬語表現を避ける．

(6) a) お子さんはいらっしゃいますか．
　　b) 子供はいますか．
(7) a) 息子さん，大きくなられましたねえ．
　　b) 息子，大きくなりましたねえ．
(8) a) お嬢さんも一緒にいらっしゃいましたか．
　　b) 娘も一緒に行きましたか．

このように a) の形を選択することは，明らかに相対敬語法の一つの現われである．なぜなら，敬語を用いるべきかどうかが，話し手と素材との関係だけでは決まらず，聞き手と素材との関係

が関与しているからである.

さて，上の (6)~(8) を韓国語に直訳すると次のようになる.

(9) a) 자제분(아드님)은 계십니까? (있으십니까?)
b) 아이는 있습니까?
(10) a) 아드님이 많이 크셨군요.
b) 아들이 많이 컸군요.
(11) a) 따님도 같이 가셨습니까?
b) 딸도 같이 갔습니까?

確かに，絶対敬語法を主とする韓国語では，日本語とは違って，敬語を含まない b) の表現を用いることができる．しかし，日本語の場合と平行した a) の表現も用いられるのである．そして，a) の表現を用いた方が敬意は強い．梅田はこれを「疎遠な素材に対する敬意表現に準ずるもの」としているが，韓国人話者にはそのように直観されない．すなわち，素材(子供，息子，娘)自体には大した敬意が抱かれていない．日本語の場合と同様に，聞き手に対する敬意を示しているに過ぎないのである．また，a) か b) かの選択に話し手と聞き手の親疎の程度が関わっていることは梅田のいう通りであるが，素材が成人でなければ a) を用いることができないということはない．成人でなくても，ときには幼児であっても相対敬語表現は可能であり，そうした方が品位が高くなる．

この問題に関連して，韓国語における語彙レベルでの相対敬語法表現について触れておこう．例文 (10),(11) の 아드님(息子さん)と 따님(お嬢さん)はそれぞれ 아들(息子)と 딸(娘)に敬意を表わす成分 -님 /nim/ を付けたものであり，語構成上は 아버님(お父様)，어머님 (お母様)と同じである．しかし，機能的には全く異なる性質を持っている．つまり，後者は自分の父母を示すにも他人の父母を示すにも用いられるのに対して，前者は他人の子供を指す場合にしか用いられない．言い換えれば，後者は呼びかけ表現としても間接的な指称語としても機能するのに対して，前者はもっぱら素材の人物に対する指称語としてしか機能しない．

このように韓国語の親族関係を表わす敬語には，目上であるか目下であるかを問わず，他人の親族に関してしか用いられないものがいくつかある．その代表的なものを挙げてみよう．

(12)	他人の父親	춘부장 [椿府丈]
	他人の母親	자당 [慈堂]，대부인 [大夫人]
	他人の兄	백씨 [伯氏]
	他人の弟	계씨 [季氏]

他人の息子	영식 [令息], 아드님 (息子さん; 息子様)
他人の娘	영애 [令愛], 따님 (お嬢さん; お嬢様)
他人の妻	부인 [夫人], 사모님 (奥様), 영부인 (令夫人)
他人の夫	부군 [夫君] {남편 /namphyən/ (夫) の尊待語}

これらの語が他人の親族を表わす場合にしか用いられないということは，その選択に際して素材と聞き手との関係を考慮する必要があるということを示している．言い換えれば，これらの語はそれ自体が相対敬語なのである．

3. 日本語の絶対敬語用法

『日本語教育事典』(1987 : 230)は，「現代共通日本語として絶対敬語といわなければならないものは，まずない」といっているが，韓国語に相対敬語現象があるように日本語にも絶対敬語現象がある．国立国語研究所 (1981 : 306) の調査によると「他人に話すとき，話し手の身内の者には敬語を用いず，また，より高い目上の人 (例えば社長) に話すときは，より低い目上の人(例えば部長) には敬語を用いないという敬語使用のきまりも，現実にはあまり行なわれてはいない」とのことであるが，これはとりもなおさず日本語の相対敬語法の規範が必ずしも守られてはいないこと，つまり絶対敬語的な言い方も相当行われていることを証明していることだと考えられる．また，大石(1983)などによると沖縄とか北陸地方などで絶対敬語的言い方がなされている可能性を示唆している．

しかし，このような規範か誤用か，または地域的特性であるかどうかの議論に関わるような例を持ち出さなくても，日本語の絶対敬語の要素を指摘することはできる．いわゆる「皇室敬語」がその例である．

皇室敬語とは「皇室で用いられる敬語」のことではなく，新聞，ラジオ，テレビなどのマスメディアが皇室関係の報道をする際に，天皇を始めとする皇族を素材として用いる敬語のことである．一般に，マスメディアの報道は敬語法に関して中立的である．どれほど身分や社会的地位の高い人物であっても，あるいは外国からの賓客であっても尊敬語を用いて報道することはあまりない．「首相は次のように語りました」，「サッチャー首相が辞任しました」のようにすべて非尊敬語で報道する．その唯一の例外が皇室敬語である．天皇を始めとする皇族に関しては常に尊敬語を，しかも往々にして過剰気味の尊敬語を用いているのである．絶対敬語法は「誰に対しても」というのが特徴であった．不特定多数の読者・視聴者に対してなされる報道の中での皇室敬語は，まさに「誰に対しても」使われる敬語である．韓国語では，自分の親ということだけで，独り言の中でも用いなければならないほど，敬語の使用が固定されてしまうことはすでに述べた．

皇室敬語も同じような性格を持っている．自分の国の皇族であるということだけで敬語の使用が決定されてしまうのである．このような意味において皇室敬語は特殊な絶対敬語であるといえる．

1990年は即位の礼(90.11.12)，大嘗祭(90.11.22)など皇室関係の出来事が多かった年であった．それらの際のNHKの報道(ニュース番組，実況中継)から皇室敬語の例をいくつか拾ってみよう．

(13) a) 天皇皇后両陛下がオープンカーにお乗りになりました．
b) 天皇皇后両陛下，手を挙げて沿道にお答えになっています．
c) 陛下をお乗せしたお車はロータリーの中に入って行きます．
d) こうやってお二人揃いでですね．パレードされて国民から祝福を受けられるのはまさに三十四年の四月十日ご成婚の時以来ですね．
e) 天皇陛下がまもなく席の方にお見えになります．
f) 大嘗祭は天皇陛下が即位されたあと，今年収穫された新穀などを神にお供えになると共に自らもお召し上がりになって五穀豊饒を感謝し，国家国民の安寧を祈られる儀式です．
g) 先ほど天皇陛下が悠紀殿での饗饌の儀を終えられて悠紀殿から退出される時の模様です．
h) 陛下は日韓両国の関係について，今夜行われる晩餐会の席で正式に申し上げたいと思いますと述べられたうえで，両国の過去の関係についてご自身の気持ちを述べられたということです．

この他にも「お着替えになる」「お着替えをされる」「宮殿に戻られる」などにみられるように，敬語が頻繁に用いられている割には多様性はあまりない．これは，竹内・越前谷(1987:2)が新聞報道における皇室敬語に関して次のように観察しているところと符合する．

現代の新聞文章にでてくる皇室敬語は，このように，オ(ゴ)～ナル型とレル・ラレル型の尊敬表現，それと語頭にオ(ゴ)～をつける尊敬語で書かれるのが「定型」である．戦前の皇室敬語に特有の晦渋な漢語はまったく影をひそめ，すべて日常用語に近い言葉に言い換えられている．

敬語を使わなければならないという固定観念のせいであろうか，次のように誤用と思われる例も聞かれた．

(14) 皇居を出発してから30分近くで赤坂御所の玄関にまもなくお到着するところです.

即位の礼には外国からの賓客も多かったのであるが，彼らについては中継の場合の「つい先程から外国からのお客様がつぎつぎに車寄にお着きになっています」のような例外的な表現を除けば，普通は通常の報道の仕方通り，敬語は用いていない．ただ，外国の皇族に関しては日本の皇族と同列に遇しようという意識が働いたのか，次のように敬語を用いて報道する場合が多い．確かに，皇族と一国の代表者を別扱いしている心理が窺える.

(15) チャールス皇太子は一般の見学者に混じって，展示物をご覧になり，職員や市民とも気さくに握手されたり言葉を掛けたりされていました.

しかし，これは例外的なものであり，一般の招待客に関してはむしろ次のように謙譲語を用いた表現すら聞かれるのである.

(16) それは先に豊明殿に入って，お食事を目の前にしながら30分以上天皇皇后両陛下をお待ちしている外国の方だったんですが...

国立国語研究所 (1981：306) の調べによると，尊敬表現と謙譲表現の区別意識がかなり怪しくなってきて，尊敬表現(「オ乗リニナリマスカ」)をすべき場合に謙譲表現(「オ乗リイタシマスカ」)を用いても構わないと答えた人が東京でも4割に達しているという．しかし，(16) のような場合は言葉の乱れではなく，確かに深層心理が働いたものだと考えられる.

次の例は，1990年5月24日，韓国のノ・テウ大統領が来日した際の報道であるが，ここでは天皇に対しては敬語，大統領に対しては普通語と見事に使い分けられている．まさに皇室敬語が絶対敬語たる所以である.

(17) ノ・テウ大統領は歓迎式典に出席した後，天皇陛下と会見し，夕方からは海部総理大臣と一回目の首脳会談を行いました．そして，ノ・テウ大統領はキム・オクスク夫人と共に，いまご覧いただいたように皇居での宮中晩餐会に臨んでおります．もっとも注目されますのは，この席で天皇陛下が日韓両国の過去の歴史について，どのようなお言葉を述べられるかという点です.

4. むすび

日本語と韓国語の重要な部分であり日本人と韓国人の言語生活を大きく左右する敬語を，特に絶対敬語法と相対敬語法の観点から比較検討した．

一般的に韓国語は絶対敬語であり，日本語は相対敬語であるとする考え方はそれなりの意義がある．しかし，常にそれだけが表に出ていて，その逆の言語現象に関しては十分な関心が払われてこなかった．ところが，日本語は相対敬語法，韓国語は絶対敬語法だとする単純な議論で片付けることはもはや通用しない．日本語にも絶対敬語用法があり，韓国語の相対敬語的現象は決して異例のものではないことを明らかにできた．

韓国語の語彙による相対敬語の用法は伝統的に存在しており，特に主語と述語の統語的関係をも考慮にいれて用いる親族敬語は相対敬語法が規範であった．

敬語は絶対敬語から相対敬語へと発達していくという．そうだからといって韓国語の絶対敬語がいきなり相対敬語へと変化していくとは考え難いが，最近の現象として絶対敬語と相対敬語の用法における「ゆれ」の傾向が少なからずみられ，伝統的な規範による敬語用法にある抵抗感を感じ始めているのが現状ではないかと考えられる．

日本語については，本稿では皇室敬語だけを取り上げたが，そのような特殊な場合に限らず，やはり様々な「ゆれ」の現象がある．話し手より上位者にはきちんと相対敬語を用いても，下位者に対しては，相対的な概念に基づく言語行動をしない傾向がある．特に呼称表現を中心に若い世代においてはそのような傾向が著しい．上下関係よりは親疎関係による言葉使いの使い分けである．日本でも韓国でも絶対敬語及び相対敬語の運用に関する絶対的な価値観が薄れてきているのである．

韓国の絶対敬語の中での相対敬語現象及び日本の相対敬語の中での絶対敬語現象は，日韓両言語の敬語におけるそれぞれの特徴的な役割を果たしながら発展し続けていくであろう．その中で部分的ではあるが両言語の敬語運用の歩み寄りが一層予想されるのである．

参考文献

李崇寧 (1984) 「敬語研究」，金鍾埈編『國語敬語法研究』，集文堂．
梅田博之 (1977) 「朝鮮語における敬語」，岩波講座日本語 4『敬語』，岩波書店．
大石初太郎 (1983) 『現代敬語研究』，筑摩書房．
国立国語研究所 (1981) 『大都市の言語生活』分析編(国立国語研究所報告 70-1)，三省堂．
成耆徹 (1984) 「國語待遇法研究」，金鍾埈編『國語敬語法研究』，集文堂．
竹内俊男，越前谷明子 (1987) 「新聞文章にみる特殊敬語（皇室敬語）の形成」，『言語文化論集』第 IX 巻第 1 号，名古屋大学総合言語センター．
辻村敏樹 (1977) 「日本語の敬語の構造と特色」，岩波講座日本語 4『敬語』，岩波書店．

日本語教育学会編 (1987) 『日本語教育事典』(縮刷版), 大修館書店.
韓 美 卿 (1989) 「韓国語の敬語の用法」, 宮地裕他編『講座日本語学 12：外国語との対照 III』, 明治書院.
文 化 庁 (1971) 『待遇表現』, 日本語教育指導参考書 2.
南不二男 (1987) 『敬語』, 岩波新書 365, 岩波書店.